

令和3年7月15日（木）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
議題（1）についての意見

学習院大学文学部教授 秋田 喜代美

あいにく当日公務で欠席となったために、資料を拝見しての提出意見となるため当日の議論と論点がずれているかもしれないことはあらかじめお詫びしたい。

**1 STEAM教育における高大連携：**STEAM教育の推進において、全体として提案された方向には賛同する。ご報告のあった兵庫県教育委員会、加古川東高校、山田高校の事例はいずれも大変興味深いものである。今後都道府県立高校に関しては、都道府県教育委員会がリードして高校と地元の大学を積極的につなぎ、高校生の探究学習を大学での専門分野の教員や学生が支援するような形で高大連携の取組が行われていくことが望まれる。

ただし、その際に筆者らが実施したOECDイノベーションスクールネットワーク2.0の経験からは、高校生と大学の教員等の専門家の連携以上に、高校生の課題探究や疑問に対しては、地元の大学生や大学院生が探究を支援するような形の取組が、一方向的な専門的知識の教示にとどまらず、両者にとっても共に探究する効果が見られることが示されている。

高大接続連携という入試改革だけでは言われがちであるが、STEAM教育を通じた、高大連携の推進は、より深い学び、探究学習の推進のために進められるべきであると考えられる。そして、そのためには、都道府県教育委員会や民間の団体や企業等が多忙な教員とのハブとなって懸け橋を作っていく可能性が大いにあると考えられる。当方の知る所では福井県教育委員会等では既にそのような推進が実施されているが、全国においてそのような取り組み事例があればぜひ部会等でも紹介をいただき、今後の方向性を論じる議論に入れていただけるとよいのではないかと考えられる。

**2 STEAMライブラリーの積極的な活用：**STEAMライブラリーの発展拡張や推進とそのネットワーク化が必要と考える。経済産業省の「未来の教室」におけるSTEAMライブラリーの監修業務担当の一人として実際の内容の一部を拝見参画させていただいた。官民と高校、大学の先生方等が連携をしてカリキュラム開発を入念に行っており、教科等横断カリキュラムで現実の複雑な課題に取り組むための糸口として、大変に意義あるものとなっている。しかしこうした内容が、経済産業省と文部科学省と言った省庁の壁を越えて有効活用を図り、あるいは文部科学省においてもSTEAM教育の好事例をライブラリー化をするなどして、全国の中学や高等学校での探究に資するコンテンツを提供していくことが、実際の学校での活用という側面にとどまらず、中等教育段階における教員の研修のデジタルコンテンツとしても有効に機能するのではないかと考える。

**3 STEAM教育等教科横断型の学習に対応する教員研修の検討：**STEAMというと理科、数学、技術等の教員の研修のイメージが一般にも取られやすい。だが、総合的な探究の時間に学校全体の教員が取り組むことが、高校での学校全体のイノベーションにつながり、専門科目で分断されがち高校教員の同僚性や専門性の開発といった意識を育成するためにもきわめて重要であることはこれまでに取り組んできている多くの学校の事例からも明らかである。その意味でどのような形で教員の研修を実施していくのかという議論を一層深めていくことが必要であるだろう。そしてそれが、教員、生徒のカリキュラムオーバーロードを防ぐための一つの重要な方策にもなると考えられる。

**4 すべての学校種での探究の検討：**「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）においても既に示されていることであるが、STEAM教育では中学や高校だけではなく、幼児期から小中高高等学校全体を通してそのあり方を議論する機会を設ける必要もあるのではないかと考える。それが新たな探究的な学びへの一貫したカリキュラム開発ともつながってくると考えられる。